

授業科目 補聴器・人工内耳

【担当教員名】 山口富一	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【概要】

聴覚障害者の殆どは何らかの残存聴力を有している。音声言語による受容・表出、コミュニケーションを改善するためには聴覚を最大限活用できるようにしなければならない。そのためには補聴器や補聴システム、更に重度聴覚障害には人工内耳が必要となる。これまでに学習した、聴覚生理、音響学、聴覚検査などを基礎に補聴器の構造・周波数特性・フィッティング・評価と装用指導を理解する。人工内耳の構造と機能・コード化法・マッピングと評価について理解する。

【学習目標】

1. 聞こえとその障害についての基本的な知識を持つ。
2. 小児聴覚障害の種類と特性を理解する。
3. 聴覚障害児の発達（心理・行動特徴、言語・コミュニケーション特徴）を理解する。
4. 聴覚障害児の検査と評価を理解する。
5. 聴覚障害児の言語発達に必要な環境調整を理解する。
6. 聴覚障害児の言語指導・訓練プログラムが立案の要点を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	補聴器の種類やアナログ・デジタル補聴器の構造と機能について理解する。	1	講義
2	補聴器の周波数特性の測定法を理解する。	1	講義
3	補聴器のフィッティング方法を理解する。	2	講義
4	補聴器装用効果の評価と装用指導を理解する。	3	講義
5	人工内耳の構造と機能を理解する。	4	講義
6	人工内耳のコード化法とマッピング方法を理解する。	5	講義
7	人工内耳の装用効果の評価と指導について理解する。	6	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	アドバンスシリーズ・コミュニケーション障害の臨床7 聴覚障害			
	日本聴能言語士協会講習会実行委員会	共同医書出版社	ISBN4-7639-3027-3	¥4000E
参考書	言語聴覚療法シリーズ5			
	聴覚障害Ⅰ—基礎編	山田弘幸 佐場野優一	建帛社	平成12年10月20日 ¥2400E
その他の資料	必要に応じてプリント配布			

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席・授業態度を重視する。	出席を重視する。
期末試験と普段の出席や授業態度を総合的に評価	主体的な学習とノートのまとめ・ミニテストを重視する。